

令和7年 年頭所感

経済産業省 商務・サービスグループ 文化創造産業課
課長 佐伯徳彦



令和7年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

印刷産業の皆様におかれましては、平素より弊省の政策にご協力を賜りありがとうございます。

昨年は、世界の不確実性が増す中、我が国の産業の持続的な成長に向けた取組が一層重要となる一年でありました。

我が国の産業は、数年間にわたる DX などの成長分野への積極的な国内投資が芽吹き、30 年ぶりとなる水準の賃上げ、100 兆円を超える設備投資、史上最高値水準の株価など明るい兆しが現れ始めました。

一方で、足下の物価高を背景に、消費は力強さを欠き、全国的に賃上げは進むものの、地域や業態によって、上昇幅にばらつきがございます。

こうした状況下においても、長きにわたるコストカット型経済から、「賃上げと投資が牽引する成長型経済」への転換を確実なものとするため、物価高に負けない持続的な賃上げを実現し、これを更なる消費と投資へ繋げていくことが必要です。

印刷産業は、商業印刷や出版印刷を始め、身の回りのありとあらゆるものに関わる、我が国の国民生活を支える重要な産業です。特に近年では、長年培われ蓄積された印刷技術をコアに、様々な事業展開がされています。デジタル化による生活様式の変化に伴い新たな需要も見込まれる中、更なる事業領域の拡大とサービスの高付加価値化により、新しい産業へと進化しつつあると認識しております。

経済産業省としては、こうした進化を後押しするべく DX 確立に向けた支援や生産性向上、省力化のための前向きな設備投資への支援を行っております。加えて、人材不足対策についても引き続き検討してまいります。

また、印刷業界におかれましては、適正な取引慣行に向けて、昨年6月と9月に自主行動計画を改訂いただき、労務費の価格転嫁の推進をはじめとした取引適正化に積極的に取り組んでいただいております。経済産業省としては、今後とも業界の皆様と強く連携し、適正な取引慣行に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

今年は、十干十二支の「乙巳(きのとみ)」であり、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした大阪・関西万博が開催される年でもあります。芽吹き始めた日本経済の明るい兆しを大切に育て、万博という大舞台を通じて「いのち」の息吹を吹き込み、蛇のようにしなやかに、力強く伸びていく経済を実現していく一年となるよう、我々経済産業省も様々な支援に取り組んでまいります。

最後になりましたが、皆様のご多幸と事業のますますの御発展を心より祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

今月の表紙



写真上段：2024年11月29日開催の
関西グラビア協組青年部の忘年会、
12月6日開催の関西グラビア協組「令
和6年度年末情報交換会」の様子、写
真下段：12月5日の関東グラビア協
組定例理事会の様子

CONTENTS

巻頭言 令和7年 年頭所感 ①

経済産業省 商務・サービスグループ 文化創造産業課 課長 佐伯徳彦

年頭所感

- (一社)日本印刷産業連合会 会長 磨 秀晴 ④
- 全国グラビア協同組合連合会 会長 田口 薫 ⑥
- 北海道グラビア印刷協同組合 理事長 若狭博徳 ⑧
- 関東グラビア協同組合 理事長 吉原宗彦 ⑩
- 埼玉県グラビア協同組合 理事長 市村清一 ⑫
- 関東プラスチック印刷協同組合 理事長 石井 純 ⑭
- 東海グラビア印刷協同組合 理事長 杉山真一郎 ⑯
- 北陸グラビア協同組合 理事長 賀谷真尚 ⑱
- 関西グラビア協同組合 理事長 竹下晋司 ⑳
- 九州グラビア協同組合 理事長 母里圭太郎 ㉒
- 全国グラビア製版工業会連合会 会長 中嶋健一 ㉔

日本印刷学会 グラビア印刷技術研究会、第14回研究例会を開催... ㉕

組合員・単組の近況

- 関西グラビア協同組合青年部：令和6年度関西グラビア協同組合青年部忘年会... ㉘
- 関東グラビア協同組合定例理事会：組合員「定款」「加入規約」、討議活発に..... ㉚
- 関西グラビア協同組合：令和6年度年末情報交換会を開催 ㉜

Data Watch 2024年9月データ 36

紙・プラスチック・ゴム製品統計月報に見る包装印刷 2024年10月... 42

Information

TOPPAN HD、米国SONOCO社の軟包装・熱成形容器事業を買収 27

JPI、「包装…知っとく知識（改訂2版）」を発刊 35

【おくやみ】

三洋グラビア(株)の創業者である原 章氏が、令和6年12月6日に永眠された。享年89。

原家・三洋グラビアによる合同「お別れの会」は、下記の日程で開催される。

日時：令和7年1月25日（土）

午後1時から3時まで随時

会場：虹のホール伊那

（長野県伊那市東春近 207）

なお、香典は辞退されている。

GPJAPANは全国グラビア協同組合連合会が発行する機関誌です。年間購読料は送料込みで15,000円＋税です。

購読および広告出稿を希望される方は、**全国グラビア協同組合連合会**まで。
e-mail : zenkoku-grv@jfpi.or.jp



発行：2025年1月10日

発行人：田口 薫（全国グラビア協同組合連合会会長）

発行所：全国グラビア協同組合連合会

〒130-0002 東京都墨田区業平1-21-9

あさひ墨田ビル

TEL.03-3623-4046、FAX.03-3622-1814

編集スタッフ：袖山高明（全国グラビア協同組合連合会専務理事）

下田幸二（同事務局顧問）、渡邊富美子（同事務局）、

酒井由香（同）

編集協力：(株)加工技術研究会

印刷：(株)DI Palette

© 全国グラビア協同組合連合会 2025

落丁・乱丁はお取り替えます。GPJAPANの無断複写・複製・転写・転機は、著作権法で認められているケースを除き、禁止されています。また、磁気・光磁気媒体等への記録することは禁止します。



年頭所感

(一社) 日本印刷産業連合会

会長 磨 秀晴



令和7年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、日本印刷産業連合会（日印産連）の運営に多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の印刷産業は、長引く円安と地政学リスクの影響によるエネルギー、原材料価格の高騰や構造的な人手不足、デジタル化による印刷需要の縮小など、引き続き厳しい経営環境が続きました。そのため、「下請適正取引の推進に向けた自主行動計画」を改訂し、労務費の適切な価格転嫁の促進やパートナーシップ構築宣言の拡大など、サプライチェーンにおける取引改善に努めました。

また、人手不足への対策として、特定技能制度の対象分野の追加が3月に閣議決定され、「印刷・製本」業務区分が追加認定されましたことは、人材獲得に苦慮されている多くの事業者にとって朗報となりました。

本年は日印産連設立40周年という節目の年であります。設立当時(1980年代)の印刷産業は、製品出荷額が10年間で2倍に拡大するほどの成長産業であり、印刷関連業界には業種や地域ごとに組織形態や事業規模も様々な団体が存在していました。そのような中、来るべき高度情報化社会の一翼を担う産業として、社会や行政に対する発信力の強化と印刷産業のさらなる発展と地位向上を目的に、大手印刷企業と中小企業団体とが大同団結し、印刷産業全体を包括する社団法人として、1985年6月に設立されました。

その後のバブル崩壊やインターネットによる情報革命を経て、印刷の製品出荷額はこの30年間で約半分に減少しましたが、その間、印刷各社は印刷技術を核に新たな情報技術を融合して事業領域を拡大してきました。今後さらに、社会全体のDXやAI活用が加速し、生活やビジネスが大きく変化するなかにおいても、印刷産業が社会に求められ続ける産業であるためには、「高付加価値コミュニケー



「インセンティブ産業」としてのあるべき姿を見据え、長期的な視点に立って会員 10 団体が力を合わせ、新たな価値創出、事業領域の拡大に向けた連携・共創を推進することが大切です。

4 月には、いよいよ大阪・関西万博が「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開幕し、SDGs 達成を見据えた新たな社会を世界に向けて発信します。関連するビジネスはもちろんのこと、多くの外国人観光客を迎えインバウンド需要も期待できます。自治体や様々な業種の企業と連携し、新たなビジネスを生み出す年にしていきたいと思います。

日印産連は本年も、印刷産業の価値向上と持続可能な社会の実現に向けて、関係省庁、会員 10 団体、賛助会員、関係業界団体の皆様と連携し共に活動を進めてまいります。皆様にはこれまで以上のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、さらなるご発展とご健勝を祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。



2025年

年頭所感

全国グラビア協同組合連合会

会長 田口 薫



皆様、明けましておめでとうございます。日頃は全グラの組合活動にご協力を賜り、誠にありがとうございます。当業界の今年の課題について少し述べさせていただきます。

1958年にスーパーマーケットが出現し、インスタントラーメンが発明され、大量生産、大量包装の時代となり流通革命が始まりました。ソフトパッケージでも需要が急拡大したため、フィルム、インキ、PEはじめ印刷機、ラミネート、スリット、製袋等々の材料、機械、印刷会社も急激に増加しました。日本の起業率は1964年、東京オリンピックでピークに達しました。結果、供給が需要を上回る状況となり、1つの需要に数社が群がり、仕事の取り合いになりました。各社の営業マンは必死で数少ない需要めがけて殺到し、価格は崩れていきました。そして、いち早くソフトパッケージにシェアを固めた大手2社と専門の中堅メーカーとの激しい価格競争が展開されていきました。半世紀以上過ぎても一度刷り込まれた価格競争、下を潜って仕事を取るクセは抜けません。勿論、品質やその他のサービスで価格競争と一線を画す業者も数多くありましたが、A社が安値を出したら、競争心からB社も追随するのはよくあることです。その結果が現状であります。

現在、当業界は設備投資もあまり行われず、印刷機メーカーも受注の半数以上は海外向けです。年間10～20台が国内向けで、現在保有する1500台のグラビア印刷機を入れ替えるのに70年かかる程です。長年の安値競争の弊害からフィルム等の原料業界もソフトパッケージからの撤退を始めました。諸悪の根源ともいえる大規模流通の徹底的に仕入れ値をカットする商法により、「一将功なりて万骨枯る」の古語の通り、サプライヤーの死屍累々（ししるい）という結果になるのは明らかです。「昔陸軍、今流通」と陳腐なたとえを持ち出すまで



もなく、生態系の頂点に立って、私たちサプライヤーに無理を強いていますが、人手不足、少子高齢化はこのシステムを根本的に破壊しつつあります。

1950年代に始まった流通革命、大量仕入れ、コストカットはもう時代遅れではないでしょうか。いつまでも昭和のシステムに流されている人々もそろそろ目を覚まして周囲を見回すチャンスです。そして、次世代の人々にしっかりとした遺産……モノではなく、考え方、商法、ノウハウを引き継ぎ、サステナブルな業界にしていく必要があります。「今だけ金だけ自分だけ」はやめましょう。社員の高齢化が進み、新人の入社が少ない状況です。今、外国人を雇用できるよう、組合では経済産業省や入国管理局とも話し合いを重ね、私たちの仕事がサプライチェーンにとって不可欠であるとの認識をいただきました。仮に、外国人を雇用できても30年前から上がっていない日本の給料で満足してくれるのか？ 日本の若者の場合も同様です。定着率の低さは給与とも関係しています。外国人を多く招き入れることは2050年に人口が1億人を大きく割り込んでいく日本にとって、人口減を食い止める策の1つですが、外国人に選ばれる国になろうと入国管理局はそれまでの方針を180度転換しました。当業界も周辺の自治体もこぞって180度転換しなければ、日本も地域も未来はありません。古代中国のたとえ話に「蝸牛角上（かぎゅうかくじょう）の争い」という言葉があります。これは小さなもの同士の争いやつまらないことに拘った争いのことです。私たちはまさにそういう競争をしてきたのではありませんか？ 賢明な会社は長年のお客様にさえ、30%以上の値上げを求めています。また、お客様もそれを理解してくださっている事実をもっと広く知って、サステナブルを最優先にすべきでしょう。今年は乙巳（きのとみ）の年です。「再生と変化」を意味し、脱皮し、強く成長する蛇は私たちの業界を象徴しているとも言えるのではないのでしょうか？

皆様のご健康でご活躍されますことを心より祈念致します。



年頭所感

北海道グラビア印刷協同組合

理事長 若狭博徳



新年あけましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

昨年は元旦より能登地方の大地震が発生、翌日 JAL 機の羽田空港での事故と暗いスタートとなりました。

歴史的な円安、原油価格高騰、闇バイト等の犯罪が多数発生、選挙における自民党の大敗による不安定な政局、アメリカの大統領選でのトランプ氏の返り咲き…世の中はどのようになっていくのでしょうか。

明るいネタは、パリのオリパラでの日本人の活躍と、ドジャースの大谷翔平選手の大活躍ですね。あの逸材は全世界の中の一握りの中の頂点です。自分の年齢を考えますと、自分的には過ぎ去った話ということを確認なくてはなりませんが、ちょっとだけ振り返って考えてみました。

本年は巳年であります。昨今の人口減を考えてみた時に、巳年生まれの方の比率が気になりまして調べてみたところ、少し古いデータですが、巳年生まれの方は 2013 年 1 月時点で 1020 万人です。干支の中では 10 番目に多く、日本の総人口 1 億 2747 万人のうち 8.0% を占めています。干支の中で人口が 1 番多いのは丑年で、1 番少ないのは午年でした。出生年別で巳年生まれの人を見てみると、昭和 40 年生まれの方が 178 万人と最も多いようです。その巳年生まれの中で一番層の厚い所に自分が居ることを知りました。そうなんです!! 本年は私が年男なのです。そんなことはどうでも良いのですが、我々が社会にデビューした時には 24 時間企業戦士として寝る間もなく、仕事と遊びを徹底していた記憶がございます。今でいうスーパーブラックと申しましょうか。

現在では働き方、労働環境の整備、残業の在り方等、企業の成長とは必ずしも同調はしていない政策の中、より高い報酬を社員に対して提出しなくてはならない、休日进行を設定しなくてはならない、残業のない職場環境を目指さなくては



ならない社会創りへと変化して参りました。また、それができなければ求人を掛けても応募してくださる方も皆無となり、まるで負のローテーションに陥ることになります。

業界内のことに関しては沢山の諸先輩にお任せをして、先般、私は札幌の経済界に精通するとある先生とお話をする機会がありました。

2020年頃より徐々に労働人口は減り始めております。2030年頃までは徐々に下降傾向は続きます。2040年にはその不足率は北海道で30.6%という試算が出ております。現実、今でも給与水準などの低いバス会社の運転手はその成り手がおらず、ピーク時に8000人余りであった数字は5000人余りまで減少してしまいました。これにより、これまでの3割減のバス路線の廃止、既設路線の減便などを余儀なくされ、市民生活への影響が既に出始めています。これから地方都市は急速にこの問題に直面して参ります。特に、北海道は全国に先駆けて深刻な問題となってきているようです。

外国人の労働者においても、東南アジアの方が中心で、観光での来道は良くても極寒の地での就労は長くは続かないようですし、国内においても高齢化が特に進んでいますので、地方都市以下の自治体は存続すら危うい状況となっています。比較的若い世代を中心とする労働力は、都市部（札幌を中心とする近郊）と東京方面に移る傾向にあります。それでもリカバリーするには至りませんが、我々北海道の企業は抜本的な経営改革を行い、企業としての構造改革を進めなくてはならないと思います。もし、それができなかった場合、事業の存続が極めて難しい状況に追い込まれるでしょう。

労働人口の補填は海外の方に全て置き換えることはありませんが、若年層から中間層においてコントロールを行う肝心の日本人が居ない環境の地方から表面化してくるかも知れません。ちなみに、試算上での東京の労働人口減はほんのわずかのことです。あと15年もしますと、見えている景色は今とでは相当違ったように見えるのかも知れません。



年頭所感

関東グラビア協同組合
理事長 吉原宗彦



新年あけましておめでとうございます。旧年中は組合活動に対し多大なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年の2024年は運送業界が働き方改革法案によりドライバーの労働時間に上限が課せられることで生じる「2024年問題」で、1人当たりの走行距離が短くなり、物流コスト、納期などに影響が出ることが問題となりました。本年2025年は団塊の世代が全員75歳以上となり、人口の約5人に1人が後期高齢者となる「2025年問題」により、企業においては労働者不足、社会全体においては高齢者を支える保険料不足などの問題を引き起こすとされています。もちろん、「2024年問題」であるドライバーの不足も予想されます。

一方、2024年のわが国の出生数は68.5万人と前年比5.8%減で70万人を切り、過去最低を更新してしまいました。出生率も1.15を割り込み、前年の1.20を大きく下回るとされています。また、厚生労働省によると2020年に就職した高卒者は1年目に15.1%、3年以内に37.0%が、大卒者は1年目に10.6%、3年以内に32.6%が離職したとの発表でした。新型コロナウイルスの感染が発生した少し前より、にわかに問題視されていました人手不足問題がコロナ禍になり、より顕著になりましたが、人口構造上、社会的背景からするとこれはほんの序章に過ぎず、人手不足はこれからがより深刻な状況になると考えられます。

これに対し政府もようやく動き出し、様々な年収の壁の上限変更により「働き控え」の解消につなげる案の検討に入りました。そして、外国人労働者の受け入れ枠の増加である「特定技能制度」の分野追加も行いました。皆様ご存じの通り、グラビア印刷業界も「印刷・製本」の分野として追加認定を受けました。

これらに関しましては大変賛成であります。働き方改革の本丸として、①リスキング（学び直し）、②ジョブ型雇用、③成長分野への労働力移動、の三位



一体の労働市場改革も同時に促しています。これは、正規雇用の「労働市場の流動性」をより高める取り組みであります。日本の産業、特に製造業の労働者は普通にもものをつくること以外に衛生環境対応、短納期対応、コスト対応、過剰品質対応など、様々なことに異常なまでに労力を費やす必要があり、一朝一夕では立派な労働従事者にはなれません。

国は人という労働力に代わるロボット、AIなどのシステムの導入を進めていますが、今現在でのロボット、AIでは代替できない製造業の仕事も多々あります。代表例は、我々グラフィア印刷ではないでしょうか。人を育て、熟練労働者を増やしていくことが会社の成長につながるこの業界において、「労働市場の流動性」は人手不足を解消することとは全く異なる解決策であり、受け入れ難い改革であります。より多くの熟練者を増やし、品質、生産性等を高めるため、今こそ松下幸之助が唱えた「終身雇用」を推し進めることの方がよっぽど必要なのではないのでしょうか。これからも機会を作り、政治家、官庁へ当業界の様々な窮状を訴え、少しでも環境改善ができればと考える所存です。

年初より堅苦しい話で大変恐縮ではありますが、本年も皆様のご支援ご鞭撻のほどお願い申し上げます。皆様のご健勝とご多幸を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。



2025年

年頭所感

埼玉県グラビア協同組合
理事長 市村清一



新年明けましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

2024 年は「甲辰（きのえ・たつ）」の干支を象徴するように『変革・激動』の1年でありました。主要国において選挙が実施され、イギリスでは2010年以来、14年振りに政権交代が起こり、労働党政権が誕生しました。フランスでは欧州議会選挙でマクロン大統領を支える与党が大敗を喫して右派政党が躍進しました。また、アメリカでも共和党のトランプ大統領候補が勝利して政権交代が起きました。日本でも総選挙が実施され、与党が2009年以来、15年振りとなる過半数割れを喫しました。

年も改まり2025年を迎えました。今年は国際・国内情勢とも昨年以上に混乱を深めることが予想されます。トランプ大統領が掲げる「アメリカファースト」により同盟関係や多国間の枠組みを軽視する政策運営は予測不能であり、自由貿易体制に大きな打撃を与えかねません。国内では、国民民主党が掲げる「103万円の壁」の議論で少数与党が振り回されています。自民党一強支配の終焉を迎え、今後は与野党伯仲の国会論戦が繰り広げられることを期待したいものです。

去年は物流における『2024年問題』が話題となりました。今年は国民の5人に1人が後期高齢者（75歳以上）の超高齢化社会を迎える『2025年問題』が取りざたされています。来年はAIデータが枯渇する『2026年問題』が早くも問題提起されています。今後は『20〇〇年問題』と毎年のように発生するのか？日本社会は前途多難です。

軟包装業界を取り巻く経営環境は厳しさを増しています。ナフサ価格の上昇によりフィルムメーカーからの強烈な値上げ要請を受け入れ、顧客に対してここ数年は毎年のように『値上げのお願い』文書を持参しています。以前よりは値上げに対する理解はありますが、満額転嫁には至らないケースが多いです。ナフサ価



格は 2024 年第 2 クォーター（4 月～6 月）をピークに下落基調にあります。フィルムメーカーはユーティリティ分の転嫁として今年も値上げ要請があるのか、経営にとっては大きな懸念材料です。

さて、今年の干支は「乙巳（きのと・み）」です。乙（きのと）は困難があっても紆余曲折しながら進むことを表現しています。巳（み）は蛇のイメージから、「再生」・「復活」・「長寿」を象徴する生き物とされています。「乙巳（きのと・み）」の組み合わせは『努力を重ね、物事を安定させていく』といった縁起の良さを表しています。昨年は、日経平均株価が 34 年振りに最高値を更新して、「失われた 30 年」のデフレ経済脱却の「再生」・「復活」の兆しをみせています。今年の日本経済が安定した成長軌道に乗れるように大いに期待したいものです。

最後に、各企業様の益々のご繁栄と会員皆様のご健勝を祈願致しまして新年のご挨拶とさせていただきます。



年頭所感

関東プラスチック印刷協同組合

理事長 石井 純



皆様、新年あけましておめでとうございます。
常日頃、組合活動にご協力を賜り誠にありがとうございます。
皆様におかれましては、期待に満ち溢れ新年をお迎えしたことを心よりお喜び申し上げます。

2024 年は世界経済体制にとって波乱の年となりました。

日米関係においても我が国は石破新内閣が発足し、米国ではドナルド・トランプ氏が再任しました。

2024 年から 2025 年にかけて日米経済は、様々な要因によって影響を受けると予測されます。

経済成長の見通しについては、日本とアメリカ、それぞれの経済成長には異なるドライブ要因があります。アメリカは、引き続き強い消費者支出と低失業率に支えられて堅調な成長が期待されます。一方、日本は少子高齢化の影響を受けつつも、新しい産業の育成、特にデジタルトランスフォーメーションやグリーンエネルギーへの移行がカギとなるでしょう。成長率はアメリカの方が高いとされる一方で、日本は企業の効率化や技術革新により改善が見込まれると考えられます。

インフレと金利政策については、2023 年から引き続きインフレ圧力が大きなテーマであり、アメリカの連邦準備制度理事会（FRB）は金利を引き上げてインフレを抑制する方針を取っています。これは金融市場に波及効果をもたらし、国際的な投資の流れにも影響を及ぼします。日本は長年にわたって低金利政策を続けてきましたが、世界的な傾向に影響され、金利引き上げの可能性も否定できません。日本銀行の柔軟な金融政策がどのように進化するかが注目されます。

貿易関係とサプライチェーンについては、日米間の貿易関係は、2025 年にかけても引き続き重要なテーマです。特に半導体やバッテリーを含む先端技術製品の分野での競争が激化する可能性があります。アメリカは中国との経済的対立を



背景に、自国の製造業を強化しようとしています。これにより日本の企業にも影響が及ぶことが予想されます。両国ともにサプライチェーンの強化を追求しており、特定の国への依存を減らす動きが見られます。

デジタル化の進展については、2024年から2025年にかけて、デジタルトランスフォーメーションが引き続き進展する見込みです。特に、リモートワークやオンラインサービスの需要は高まり、これに対応する形で企業は新しいビジネスモデルを模索するでしょう。また、金融テクノロジー (FinTech) やブロックチェーン技術の採用も進むことで、経済の効率化が図られます。

2025年の日米経済も、成長、インフレ、貿易関係、環境対策、デジタル化の進展など、複数の要因によって影響を受けることが予想されます。両国は共に直面する課題を乗り越えるため、経済政策の見直しや新しい産業の育成に努めていく必要があります。特に、国際的な競争が激化する中で、協力と競争が共存する経済関係が日米の未来を築くカギとなるでしょう。

さて、このような日米関係が予想される中、私ども軟包装業界にも少なからず影響があると考えられます。2024年より引き続き原材料の高騰、人件費の高騰、エネルギーのコストアップと厳しい状況は続いております。

2025年も引き続き軟包装業界の地位の向上と、適正価格の確保が業界を支えるキーポイントと考える次第でございます。

2024年の干支は巳年です。巳は蛇のことであり、豊穡や金運をもたらす神様として崇められてきました。脱皮をすることで傷を癒し、成長する蛇は「復活と再生」を連想させるため、たくましい生命力や不老長寿につながる縁起のいい動物と考えられています。

とても縁起の良い年と言われており、当業界にも良き影響を及ぼすことを期待したいところです。

最後になりましたが、今年一年が皆様にとって素晴らしい一年になることを祈念申し上げまして、新年の挨拶とさせていただきます。



2025年

年頭所感

東海グラビア印刷協同組合
理事長 杉山真一郎



新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。
常日頃、組合活動にご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、皆様も決して忘れてはいないと思いますが、去年は新年早々、能登半島沖で大きな地震、津波が発生しました。久しぶりに家族が顔を合わせ、笑顔でおせち料理など団らんの中、悲劇は起きました。そして、9月には同じ地域で豪雨による被害が起き、住民の方は何十年に1度のような災害が1年に2度も起きるのかと仰っていた言葉が印象に残っています。

「記録的」「何十年に1度」「いのちを守る行動」、こういった言葉を1年に我々は何回も耳にします。当社の本社がある名古屋市の暑さの記録を調べると、10年前の2014年における夏日の日数は76日、真夏日は60日、猛暑日は8日で、1年のうち、25℃以上の日が144日でした。昨年2024年の記録を調べると、夏日は65日、真夏日は50日、猛暑日は47日で合計162日が25℃以上の日です。注目すべきは35℃以上の猛暑日が6倍増加しているということです。

気温の上昇は雨や台風、農作物、海産物に大きな影響を及ぼします。去年はコメ騒動が起きました。野菜も高騰しました。異常気象が常態化しつつあることは誰もが感じており、地球の温暖化を止めなければならないことは皆さん共有していると思いますが、他方で、例えば、日本の電力消費量は東日本大震災以降減少傾向でしたが、半導体誘致や、AIの普及によるデータセンターの開設などで今後の電力需要は増える見込みのようです。そして、戦争もなかなか終息しません。これから生まれてくる次の人へ何を渡すことができるのかが我々に問われていると思います。

次の人へ渡すという意味では、社会インフラであるパッケージを作っている我々の業界は、今後の安定供給のためにサステナブルな業界、持続可能な業界に



ならなければなりません。

詳しいデータがあるわけではありませんが、私の実感としてパッケージ業界は物価の高騰による購買点数の低下で 10 ～ 15% 生産量はダウンしているのではと思われます。食品パッケージ市場は人口減少、高齢化も含め縮小傾向にあります。いくつかの事業をもっている大手企業を中心に事業ポートフォリオの見直しにより、業界に仕事が回っているという現象が起きていると感じます。事業の選択と集中、人手不足により思い描く稼働ができないといった傾向はますます高まると予測します。

人手不足でいえば育成就労制度へ変更になるとともに、グラビア印刷が特定技能の職種として認められました。これに携わられた全国グラビア協同組合連合会の田口 薫会長をはじめ、皆様に改めて深謝致します。

特定技能を利用する企業は全グラの正会員にならなければならず、定款の改定や組合員の増加など、今年は各単組含め全グラにとって大変忙しい年になります。

皆様のご理解とご協力が不可欠となりますのでよろしくお願いします。

昨年、アメリカでも日本でも政権に対して国民が NO の判断を下しました。背景はいろいろあるでしょうが、私は多くの国民が生活に苦しんでいる結果だと理解しています。皆さんがハッピーであれば、多少問題があったとしても政権交代までは起きないのではないかと考えます。アメリカにおいても日本においても物価高は 2025 年も収まらないと指摘する専門家がいらっしゃいますが、物価高に対して多くの国民が苦しんでいるということであるなら、何らかの手は打たれるだろうと期待します。

物価高は落ち着いて欲しい一方で、為替にもよりますが日本の賃金は諸外国と比べ、低くなってしまいました。石破政権は時給 1500 円へのシナリオを描いております。賃上げは経営に影響を及ぼしますので、適正価格がますます重要となります。サステナブルな業界、若者にとって魅力的な業界、未来に渡せる業界なれるよう、今年もよろしくお願い申し上げます。

最後に会員皆様方のご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新春のご挨拶とさせていただきます。



年頭所感

北陸グラビア協同組合
理事長 賀谷真尚



新年あけましておめでとうございます。

昨年は元旦から、当地北陸は能登半島地震に襲われ、特に能登地区は大変な被害を被り、やがて1年経ちますが未だに復旧せず、その間9月に今度は豪雨災害が起き、能登地区は二重の被災を受けました。当組合の1社が直接の被害を受け、また、富山県・加賀地区・福井県の組合員も、版や製品が倒れたりといった被害がありました。地震はいつ来るか分からず、先日も震度3の地震があり緊張させられました。今年はそんな経験から、地震そのものからは逃られませんが、多少の備えをしたいと思っています。

昨年は世界の各地で選挙が行われ、アメリカ、ヨーロッパ、中南米、アフリカ、日本と選挙の年でした。目立ったのは、極右政党と極左政党の台頭で、それぞれの国が分断した様子で、中道政権が弱くなっていると感じます。日本でも自民政権が過半数割れし、野党の政策にもよりますが、妥協をせまられ国会の審議も長引き、空転が予想されます。一方、日本にとっては最大の影響があるアメリカではトランプ氏が次期大統領に決まりました。日本のマスメディアの報道を見ると、自国優先の政策でまったくこれまでと違った政治になるだろう、日本にとっても大変気を遣う外交になると書き立てていますが、果たしてマスコミの予測や推測は的確なのか、少し疑問に感じています。

今回の選挙では民主党に差をつけて勝ったことは、アメリカ国民の民意で選ばれたわけで、トランプ氏側から見た多数派がどの政策に期待したのか、何故選ばれたか、の報道も書くべきであると思います。と言いながら、我々は日本のマスメディアの報道を見て、それを信じている部分があります。ただ、最近の報道を見て、政府の組閣にしてみても自分の味方や従順な人を閣内で固めるという手法はかなり強引で、民主的ではなく、独裁的で民主主義が崩れるのではと心



配です。我々は戦後教育で民主主義を叩き込まれた時代で、民主主義が今のところ政治思想では一番であると思っていますがどうなのでしょう。

日本でも兵庫県知事選で、あれほどメディア報道で叩かれ絶対不利と思われた、斎藤前知事が再度選ばれました。これも、マスメディアはどう予測分析をしたのか分かりません。これも選んだ人々が何故選んだかの意見をもっと書くべきです。

共に偏向報道で公平ではなく、メディアの役割を果たしていない、もっと責任を持って、視聴者が判断しやすい、あるいは事実に近い報道を望みたいと思います。

近年、環境問題が叫ばれ、脱プラの報道をよく見ます。我々もプラスチックフィルムを扱っており、プラスチックが悪者扱いされて業界にとってはアゲンストの風で、多少萎縮した気持ちですが、安くて便利で衛生的で、生活の必需品の1つであり、社会で役立っていると思います。マスメディアは世の風潮でそれに乗っかり、海が汚れるのは全てプラスチックが原因であるかのように書き立てますが、どれだけの範囲で利用されているのか、それはどんな理由で使われているのかも報道すべきであると思います。

マスメディアは多数の人々に対して大きな影響を与えます。公正、公平に報道することを願うし、我々もまた、マスメディアを利用することも考えるべきであると思います。

毎年祈ることですが、皆さんと一緒に今年も一歩成長し、安寧に過ごせることを祈念いたします。



年頭所感

関西グラビア協同組合
理事長 竹下晋司



新年明けましておめでとうございます。

令和7年の初春を迎え、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。
また、旧年中は関西グラビア協同組合に対し、多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。この新年の節目に、稲盛和夫氏の言葉に触れながら、私たちの業界の未来を見つめ直したいと思います。

「人間として正しいこと」を实践する業界へ

稲盛氏は、「人間として何が正しいかを基準に判断し行動する」ことを経営哲学の根幹に据えました。この言葉は、私たち関西グラビア協同組合にも大いに当てはまります。業界を取り巻く環境は、脱炭素社会の実現、サーキュラーエコノミーの推進など、かつてない変革を求められています。私たちは、この厳しい時代を「人間として正しいこと」に立ち返ることで切り拓いていかなければなりません。

例えば、プラスチック包装は軽量で機能性が高く、社会に欠かせないものです。一方で、環境負荷への配慮もまた不可欠です。これら相反する要素に対し、「地球に優しい包装材の開発」と「廃棄物削減」という二軸で取り組むことが、社会的責任を果たす正しい道です。これからも関西グラビア協同組合として、持続可能な社会の実現に向けた努力を続けます。

「心を高め、経営を伸ばす」挑戦

稲盛氏はまた、「心を高めることが企業経営の基礎である」と説きました。企業活動の中心には、経営者や社員一人ひとりの「高い志」と「倫理観」が必要です。私たち関西グラビア協同組合が目指すべきは、業界全体の心を高め、地域社会や次世代に貢献できる経営を実現することです。

そのために、青年部を中心とした次世代人材の育成を強化してまいります。昨



年の技術研修会や全国交流会で得た成果を基盤に、新しいアイデアや情熱を業界に吹き込む環境を整えていきます。そして、EXPO2025 大阪・関西万博の開催期間にあわせ、9月に当青年部が青年部全国大会の準備を進めています。万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」×「パッケージの未来」を共に学び考える機会にいたします。また、外国人技能実習生の特定技能職種指定への移行支援も進め、多様な人材を活かした「人を中心とした業界づくり」に努めます。

「一燈照隅、万燈照国」の精神で業界を牽引

稲盛氏が生涯大切にしていた座右の銘に、「一燈照隅、万燈照国（いっとうしょうぐう、ばんとうしょうこく）」があります。一つの灯りが隅を照らすように、一人ひとりが輝くことでやがて国全体を照らすことができる、という意味です。関西グラビア協同組合として、業界の一隅を照らし、全国、さらには世界にその灯りを広げていく努力を続けてまいります。

今年も、VOC 排出抑制やグリーンプリンティング認定の推進、脱炭素や再生可能エネルギーの活用といった課題に取り組みます。また、業界のイメージアップ活動では、包装材がいかに関生活に役立つかを伝え、社会から信頼される業界を築く努力を続けます。このような取り組みが、次の世代に誇れる業界の未来を築く道と信じています。

希望の年に向けて

稲盛氏は、「苦しい時こそ、仕事を通じて自分を磨く機会が与えられる」と語られました。令和7年も私たちにとって試練の年になるかもしれません。しかし、その試練こそが成長の種となるのです。関西グラビア協同組合が培ってきた結束力と挑戦する精神をもって、必ずや次の未来を切り拓いてまいります。

最後になりますが、組合員・賛助会員の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、本年もご支援とご協力をお願い申し上げます。共に希望に満ちた一年を作り上げましょう。関西グラビア協同組合理事長としての決意とともに、新年のご挨拶とさせていただきます。



年頭所感

九州グラビア協同組合

理事長 母里圭太郎



謹んで新年のお喜びを申し上げます。

今年はどのような年になるのでしょうか。トランプ政権の政策の影響や、世界各地の対立による地政学リスクの顕在化により不確実性は増すばかりです。

九州経済は、個人消費は堅調、観光 DI（ディフュージョン・インデックス）・インバウンド DI も高い水準を維持していますが、人手不足問題は深刻です。九州地域の人口減少は早いペースで進み、人手不足に伴う社会・経済への影響も表面化しています。団塊世代が後期高齢者となり、生産年齢人口の減少が本格化する中、地域経済の成長を持続するため（衰退を阻止するためとも言えるかも知れません）、労働供給の確保・質の向上がますます重要となっています。

九州地域の有効求人倍率は、長らく全国よりも低い水準にありました。景気拡大期には大都市（首都圏）での労働需要が拡大することで、地方との格差が拡大し、景気後退期は逆の動きとなるサイクルのもとで、一定の格差が維持されてきました。しかし、近年（2010 年代以降）、景気拡大期においても倍率の差が拡大せず、九州地域と全国（および首都圏）の倍率が同水準で推移するようになってきています。域内の有効求職者数が生産年齢人口の減少により漸減しているにもかかわらず、有効求人数が上昇を続けているためです。

働き方改革・多様な働き方を受け入れていくとともに、外国人労働者受入政策の重要性がますますクローズアップされていきます。そのような状況下、外国人労働者受入政策の新制度に向けて組合の懸命な働きかけが、少しずつ実を結んでいき、業界全体を動かし始めています。また、行政の側からソフトパッケージ製造に携わる産業の存在感を認めていただけるようになってきていることは大きな成果だと思います。これからも一丸となって知恵を出し合って進んでいきましょう。



一方、斯業界に大きな影響を及ぼす環境問題については、様々なビジネス的側面や各国事情の主張が飛び交い、国際会議も上手くまとまらない状況です。食品の流通から消費までを視野に入れていただければ、食品を包むためのプラスチックフィルムの適切な使用は、食の安心安全を担保し、食品ロス削減を含めトータルでの環境負荷低減に資するということは間違いのない主張だと思います。

プラスチックストロー・紙ストローのように右往左往しないですむように、プラスチックフィルムの削減については単なる削減でなく、流通やフードロスへの貢献等を考慮して最適解を探るという視点が必要になります。

世の中に役に立つパッケージを送り届ける業界として、安定供給の責務を果たすため、適切な設備・人員の確保は必須です。「適正価格」を大切にすることで、会社の利益を設備の維持・社員への還元につなげ、継続的な成長ができるように、組合員の皆様と頑張っていきたいとの想いを新たにします。

Google の検索窓に「賀状」と入れると、予測変換の一番上は「賀状じまい」と出てくる、そこはかたく寂しいご時世ではあります。こうして GPJAPAN の誌面を通じて、新年の喜びを皆様と分かち合えることを本当に有難く思います。年賀状や紅白歌合戦を楽しみにしていた時代が遠ざかっていきますが、新年を新たな気持ちで迎えるという日本人の感覚は大切にしていきたいと思います。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



2025年

年頭所感

全国グラビア製版工業会連合会

会長 中嶋健一



新年あけましておめでとうございます。

旧年中は当工業会に対しまして格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

激動の令和7年の幕が開きました。超高齢化社会、少子化、人手不足、物価高、原材料高、政局動向など、さまざまな不安材料が目白押しです。こうした状況下での会社の舵取りは、我々にとって今後大きな課題となります。

「生き残るのは最も強いものではない。最も賢い者でもない。変化に迅速に対応できる者だ」

あまりにも有名なチャールズ・ダーウィンの「進化論」の言葉です。会社は変わらなければならない理由があります。それは、経営環境が驚異的な速度で変化しているからです。テクノロジー、流通、顧客の嗜好、法規制などすべてが変わり続けている中、会社が立ち止まることは許されません。そうしないと、世の中の動きについていけず、会社の屋台骨にひびが入る危険性があります。

変化の必要性は頭では理解しているのですが、心の中では恐れがあります。「果たして変えることができるだろうか?」「変わった後、自分についていけるだろうか?」という恐怖心です。しかし、その恐怖心に打ち勝たなければ、企業として生き残ることはできないと強く感じています。

「巨耳細口」という中国の言葉があります。耳は大きく、口は小さく、つまり、「人の言うことにはよく耳を傾けて聞き、話すときはほどほどに」という意味です。謙虚な気持ちを忘れず、常に学び続ける姿勢を大切にし、新しい年には挑戦していきたいと思います。

新年を迎え、組合員1人ひとりが持つ力を結集し、共に歩んでいけることに深い感謝の気持ちを抱いております。困難な時期ではありますが、皆様と力を合わせ、1つひとつの課題を乗り越えていきたいと思います。引き続き、皆様にご信頼いただけるよう全力で努力してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年もご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸を心より祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

日本印刷学会 グラビア印刷技術研究会

第14回研究例会を開催

(一社) 日本印刷学会技術委員会グラビア印刷技術研究会は、2024 年 11 月 26 日 (火) 午後 1 時 30 分～4 時 30 分まで、第 14 回研究例会「パッケージ印刷の未来を考えるー 10 年後を勝ち抜くパッケージとは? ー」をオンライン配信で開催した。

軟包装新時代における水性インクジェットプリンターの価値

(株)ミヤコシ 企画開発本部 企画部 部長 中村正道氏



ミヤコシの中村氏

パッケージ戦略と印刷方式における関係について中村氏は、「優れたデザイン性のあるパッケージを小ロット短サイクルで出していく時代が到来していると感じる。収益の源泉となるのはパッケージの多角的な展開。そこで必要となるのが生産性の高い製造プロセスであり、特にマーケティング重視の戦略に対してはインクジェット (IJ) が有効」と話す。

消費者ニーズやライフスタイルの変化の観点から今後も小ロット多品種の需要は増加傾向にあるとし、デジタル印刷を活用してパーソナライズパッケージを展開しているネスレの「キットカット ショコラトリール PICK To MIX」や、菓子メーカーとのコラボで写真をアップロードするだけでオリジナルデザインのパッケージが作成できる(株)ジェミニウムのサービス例を紹介。

また、パッケージにはブランドオーナーのマーケティング戦略に追従する機敏性と絵柄デザイン性が必要となり、環境にもオペレーターにもやさしい水性 IJ にはアドバンテージがあるとし、軟包装印刷の新しい選択肢として、同社ピエゾタイプのドロップオンデマンド方式の水性 IJ プリンター「MJP ADVANCED 30X for FILM」を紹介。軽包装用の裏刷り機で、ラミネートはドライ・ノンソルに対応する。

一方、水性 IJ の課題については「印刷速度は 80m/min でグラビア印刷機にはとても追いつかず、乾燥部や IJ ヘッド、インクなどのさらなる改善や、IJ で小ロット印刷ができて製袋機が追い付いていけないと言われることもあり、他社の機械への追従も必要。また、水性 IJ を複数台導入している会社は海外のみ。エンドユーザー側からすると、日本のコンバーター間で提携してバックアップしてもらえような環境の構築も必要ではないか」と述べた。

W&H 社 CI 型フレキシソ印刷機をベースに考える軟包装パッケージの可能性

(株)イリス 印刷紙・フィルム加工機械第三部 担当次長 脇坂信也氏



イリスの脇坂氏

脇坂氏は、「今がなければ未来はないので、われわれが責任をもって地球環境・子供たちの未来・強い日本の製造業の価値を後世に引き継がなくてはならない。未来のパッケージを考えたときに、まず第一歩として、ラミネートはドライからノンソル、そして水性フレキシソ印刷とノンソルラミネートを組み合わせた、環境と安全性に配慮したパッケージ製造は1つの解決策になるのでは」と、ドイツ・ウィンドミューラー&ヘルシャー (W&H) のCI型フレキシソ印刷機やイタリア・ノルドメカニカのノンソルラミネート機などを紹介。

フレキシソ印刷では、工場内の湿度・温度による印刷品質のばらつきやインキ濃度の変化、版メーカーによる印刷再現性の違いなどの変動要素があるものの、インキ・アニロックス・印刷ユニットの固定、インキ、製版、版材、機械の各メーカーの初期立ち上げ時の固定、フレキシソ印刷そのものの理解を深めることが、生産性向上や利益確保につながるのではないかと説明する。

脇坂氏は、「グラビア印刷とドライラミの組み合わせに比較すると、変動要素や技術的に見確立な部分もあり、難易度が高い技術だと考えるが、W&H やノルドメカニカは、アルコールベースのインキ・水性インキ兼用機やドライ・ノンソル兼用機を製造しているので、上手に機械を使いながら、一歩ずつ進めていくこともできるのではないかと語った。

環境に貢献するパッケージへ

～ EB オフセット印刷の可能性と今後の活用方法について～

(株) SCREEN GP ジャパン I.P.S 営業統括部 統括部長 畠山博行氏



SCREEN GP ジャパンの
畠山氏

「EB オフセット印刷は、まさに日本市場でこれから始まる場所。2023 年頃から各インキサプライヤーが日本市場向けのインキをリリースし、サンプルが様々な展示会で出品された」と畠山氏。

同社が取り扱うスペイン・COMEXI のCIドラム方式のEB オフセット印刷機「CI Evolution」は、センタードラムの直径が約3mと大型で、ドラムデッキの左側に4色、右側に3色＋フレキシソユニット1色を配置し、デッキ上部にはEB照射装置が搭載されている。窒素ページを使用するため、「液体窒素なら40～80円/m³、窒素ジェネレーターであれば電気代15～35円/m³を参考値として出している」

とのこと。最高印刷速度は 300mm/min、最大リピート長 930mm、対応基材は BOPP、PET、PE、BOPA、OPS シュリンク、PET シュリンク（チルローラーオプション）、紙（厚紙はオプション）。オフセット用の CTP レコーダーを使用し、1 版 1 分、8 色なら 8 分で出力ができ、プレートの完全セットは約 20 分。

EB インキはインキの内部まで硬化できるため、マイグレーションの要素が少なく、超低臭、速乾、高密着性、常温硬化のためフィルム印刷適性があり、VOC レス、必要エネルギーも UV インキ等より少ないといった特徴を有する。

畠山氏は、ヨーロッパの状況について現状では溶剤フレキソインキの使用がまだ多いが、VOC レス、フィルム適性、食品安全面から EB インキへの関心は高いと話す。そして、2017 年にヨーロッパで設立された「CEFLEX」を例に、「2050 年をターゲットに環境負荷軽減の取り組みが動き出している。ヨーロッパでは 25 年までに使用済み軟包装材を回収・分別、リサイクルするためのインフラを構築することが 1 つのターゲットとして進んでいるが、日本市場の対応や具体的なものづくりはこれからではないか」とまとめた。

Information

TOPPAN HD、米国 SONOCO 社の軟包装・熱成形容器事業を買収

TOPPAN ホールディングス(株)は、米国を中心にコンシューマーパッケージング事業や産業用紙パッケージング事業を展開する SONOCO PRODUCTS COMPANY (SONOCO 社)との間で、SONOCO 社の有する軟包装事業および熱成形容器事業 [TFP (Thermoformed and Flexible Packaging) 事業] を取得することで合意し、同事業取得に関する契約を締結した。

TOPPAN グループは、同事業取得を通じ、SONOCO 社の TFP 事業が保有する北米・南米を中心とした強力な顧客・製造基盤を活かし、グローバルでのサステナブルパッケージのビジネス展開をより強化することで、全世界でブランドオーナーのサステナブルニーズに応え、事業を拡大していく。なお、本件における取得対象は、軟包装事業、熱成形容器事業、並びに関連事業となる。米国等に新設する同社の子会社が SONOCO 社との間で同事業取得を行う。

同事業取得の実施については、独占禁止法その他法令上必要なクリアランス・許認可等の取得が完了することを前提としている。また、事業のそれぞれにつき、適用される法令等の範囲内で、かつ、法令等に基づき必要とされる手続

きがある場合には当該手続きが完了した上で実施する。

【事業取得の相手先企業と対象事業の概要】

名称：SONOCO PRODUCTS COMPANY

所在地：1 N. Second St. Hartsville, South Carolina

代表者：President and Chief Executive Officer Robert Howard Coker

事業内容：コンシューマーパッケージング事業、産業用紙パッケージング事業他

資本金：7175 千米ドル(2023 年 12 月期末時点)

取得対象事業：軟包装事業、熱成形容器事業、および関連事業に属する SONOCO 社子会社株式および資産

取得価格：1800 百万米ドル（約 2713 億円）を予定

※当該取得価額には同事業取得の対価に加え、ネット有利子負債等の調整額を含む。なお、最終的な取得価額は同事業取得の譲渡契約に定める取引実行時の調整を実施した金額となる予定（1 米ドル＝150.74 円換算）

契約締結日：2024 年 12 月 18 日（米国時間）

事業取得日：2025 年 4～6 月（予定）

組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合青年部

令和6年度関西グラビア協同組合青年部忘年会

関西グラビア協同組合青年部（森脇拓也青年部長、森脇鉄工㈱）は、2024年11月29日（金）、28名参加の下、熟成肉専門「但馬屋心斎橋」において令和6年度青年部忘年会を開催しました。同じ日程で老舗名店のすき焼きをいただいた前年度に引き続き、本年度も11月29日（いい肉の日）に因んで企画しました。



開宴の挨拶をする森脇青年部長



乾杯の音頭をとった米谷会員



閉宴挨拶は堀川青年部副部長

午後6時の開宴に際し、森脇青年部部長が、年末に向け多忙な中を集まっていたことに謝意を述べるとともに、11月初旬に開催した2025年3月の第18回グラビア技術研修会に向けた教育研修委員会において闊達な意見交換ができ、大筋では従来型を踏襲しながらも部分的にマイナーチェンジすることでより充実した研修会を目指し皆が一丸となっていることに心強さを感じたこと、今後も青年部の若い力で組合活動を盛り立て、また青年部全国大会などを通じ相互理解を深め全国で活性化に取り組むことで、いずれは業界の発展につながっていくと考えていると挨拶しました。

その後、森脇青年部部長の突然の指名で芳生グラビア印刷㈱の米谷会員が、若手メンバーの一人として組合活動を盛り立てていく決意表明とともに乾杯の音頭をとり、忘年会が始まりました。

まずは、但馬屋名物うにく（雲丹と牛肉）とお店が特別に準備下さった日本酒でスタートし、その後、次々に運ばれてくる熟成肉の焼肉、シャトーブリアンスステーキ、炙り寿司、冷麺などでお腹と心を満たしながら賑やかに情報交換を行いました。

閉宴の挨拶は、組織交流委員長であり今回の忘年会を企画した堀川 孟青年部副部長から、来年関西グラビアが主催する青年部全国大会を成功させるべく会員皆の協力を仰ぎ、一本締めで午後8時40分、青年部今年最後の行事を無事に終えました。

snapshot



組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合 定例理事会

組合「定款」「加入規約」、討議活発に

関東グラビア協同組合（吉原宗彦理事長、東京加工紙㈱）は、2024年12月5日（木）午後3時～5時30分まで、14名の理事・監事の出席の下、組合事務所にて定例理事会を開催した。

司会進行は全国グラビア協同組合連合会事務局顧問の下田幸二氏が、議長は吉原宗彦理事長が務めた。吉原理事長は冒頭の挨拶の中で、政府・連合が表明している賃上げ計画に触れ、「しっかり価格転嫁をしていかないといけない。欧州企業との利益率の違いはあるが、生産性、価格、利益を上げていくことの必要性を改めて感じている」と述べ、以下の議論に入った。

日印産連 GP 環境大賞等表彰式・トークショー

山下雅稔副理事長と吉原理事長が2024年10月30日開催のグリーンプリンティング（GP）環境大賞等表彰式・トークショー・懇親会について報告。今後の開催について案内方法等の改善に取り組み、GPのブランド力をさらに高め、盛り上げていきたいとのコメントがあった。

新年賀詞交歓会準備状況

下田事務局顧問より、2025年1月17日の新年賀詞交歓会の開催および来賓等について報告があった。

ラミネート・スリット・製袋の特定技能職種指定に向けての陳情活動

ラミネート・スリット・製袋に関する特定技能職種指定に向けた活動について吉原理事長より報告があった。

VOCに関するアンケート

安永研二副理事長より、経済産業省依頼の「揮発性有機化合物（VOC）排出抑制対策の効果分析・予測のための調査のお願い」について説明があった。

「定款」変更と「加入規約」制定、製造業特定技能外国人受入れ協議・連絡会への加盟について

袖山高明専務理事より進捗等の報告がなされ、出席者から意見を募った。

出席理事・監事

吉原宗彦理事長 (東京加工紙(株))	村野 剛理事 (信和産業(株))
田口 薫最高顧問理事 (大日本パッケージ(株))	福島 潤理事 (株)東和プロセス
安永研二副理事長 (東包印刷(株))	諸石武士理事 (日本パッケージング(株))
山下雅稔副理事長 (株)巧芸社	柴田里香理事 (弁護士)
川田雄治理事 (トーホー加工(株))	袖山高明専務理事
橋本 章理事 (橋本セロファン印刷(株))	岸本一郎監事 (株)カナオカ
千田 敦理事 (株)東京ポリエチレン印刷	佐藤裕芳監事 (株)千代田グラビヤ



snapshot



理事会後には忘年会も

組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合

令和6年度年末情報交換会を開催

関西グラビア協同組合（竹下晋司理事長、㈱ダイコー）は、2024年12月6日（金）午後6時からANAクラウンプラザホテル大阪（万葉西の間）において、120名参加の下、令和6年度年末情報交換会を開催しました。



司会進行を務めた
新生紙化工業㈱の吉田会員



竹下理事長

新生紙化工業㈱吉田貴亮会員の司会進行でスタートし、竹下晋司理事長が開宴に際し、「特定技能に印刷・同関連業が区分追加されることとなり、今まで3年だった技能実習に加え、さらに5年間、特定技能1号として雇用することが可能となります。このことはとても大きなメリットですが、一方デメリットとして転職も可能という難しい問題を抱えることとなります。今回、組合員の皆様には全グラの方から会員証が交付されます。これがなければ特定技能受入れのために必要な製造業特定技能外国人受入れ協議・連絡会へ加入することができません。詳細は未定ですが、決まり次第メルマガで配信しますので、皆様、確認して手続きをお願いします。また、3年後の2027年には技能実習制度から育成就労制度に変わります。育成就労制度では特定技能への移行をスムーズに行うことを目的として、対象職種を特定産業分野と一致させることが決まっています。グラビア職種は既に認められていますが、今、大きな問題となっているのが、ラミネート加工、スリット加工、製袋をそれぞれ専門で行っている事業者が今回の特定技能区分追加から漏れてしまっていることです。新たに追加するよう全グラのほうで経済産業省へ働きが

けをしていて、先日私もオブザーバーとして会議に参加しましたが、担当者は非常に好意的で理解を示してくれています。しかしながら、職種認定には厚労省、入管庁の賛同が必要で、その賛同を得るためには実質的な数字、例えば、人手不足の状況、それを解消するために行っている施策、過去5年での賃上げ状況など具体的データを出来る限り多くの事業者から集め、陳情しなければなりません。そこで今回、第一弾として、皆様と取引関係にあるアウトサイダーの製袋専門業者に向けてアンケートを実施します。アンケート用紙は



乾杯の音頭は賛助会員を代表して大日精化工業(株)の田端氏



新会員となった(株)フジコーの森氏が挨拶



閉宴挨拶は堀川理事

メルマガ等で配信します。提出期限まで日があまりありませんが、皆さんの協力がなくては前に進むことができないので、ここはどうか力を結集して実施して下さい」と挨拶されました。

その後、賛助会員を代表して大日精化工業(株)執行役員 西日本支社 支社長 田端隆宏氏の乾杯の音頭で宴会が始まりました。途中、今期新たに組合加入された(株)フジコー 取締役総務部長 森 光弘氏から加入挨拶をいただき、2時間の食事と歓談の輪が繰り広げられました。

最後に、役員一同が登壇し、本年度で退任される堀川 昇理事が代表して、「本日、会場に集まった参加者を見て大きく若返ったかと安心しました。来年5月の通常総会をもちまして私と中西理事、菅野理事が退任します。関東グラビアは関西グラビアよりも平均年齢が10歳ほど若く、既に先を走っています。それに追いつけ追い越せで関西も頑張っていきたいと思っています。役員の体制も大きく変わる予定です。ここ数カ月で四国から新会員が数社加入いただいて本当に有り難いと思います。約20年前、今は亡き米谷前々理事長と竹下理事長と私で会員増強のために四国を行脚して廻ったことが、つい最近のことのように思い出されます。本日をもちまして、私がこの場に立つことはありません。今後とも関西グラビア協同組合をよろしくお願い申し上げます」と挨拶されました。

そして、締めくくりの万歳三唱は、堀川理事から突然の指名で司会者の吉田会員が登壇し、親子二代にわたり完璧に事業承継されたかのような関西グラビア協同組合恒例のユニークな万歳三唱で会場が笑いに包まれる中、午後8時、関西グラビア協同組合今年最後の行事を無事に終えました。



一人二役の大活躍！ 司会の吉田会員による万歳三唱

snapshot





Information

JPI、「包装…知っとく知識（改訂2版）」を発刊

日本包装技術協会（JPI）は、2012年に「包装…知っとく知識」初版を発刊、その4年後の2016年に改訂版を発刊し、今回8年ぶりに全面見直しを行い、改訂2版「包装…知っとく知識」（B5判／310頁／定価8000円＋税）を発刊した。

同書は、第1部：包装の基本、第2部：包装の事例、第3部：包装技法、第4部：容器包装と法的な規制の4部で構成されている。包装に対する予備知識がなくても、包装の基本から実際の事例までを誰もが理解できるような解説となっている。今回の見直しに伴い、下記のような追加が行われた。

第1部では近年の社会全体での取り組みである持続可能な社会の実現の動きとして“循環型パッケージ”、“循環型ポリマー利用促進”を新規追加、第2部では新たに“コンビーフ”、“ヨーグルト”の事例を追加、第3部では新たに“包装貨物試験評価技法”を追加、第4部では“包装材料、容器包装の衛生・安全性に関する法規制とリスクマネジメント”、“食品表示に関する法規制”を対象に、法規制の改正、食品表示法制定等に伴い全体を見直し改訂した。また、資料編では新たに“包装、物流分野に関連するJIS規格”、“包装、物流に関連する国際標準規格”を追加している。